

令和5年度第1回 恵那市廃棄物減量等推進審議会 会議録

日時：令和5年7月21日（金）午後3時30分～

場所：恵那市役所会議棟中会議室

1. 開会
2. 委嘱書の交付
3. 水道環境部長挨拶
4. 委員自己紹介・事務局紹介
5. 審議会の組織運営について（資料1・資料2）
6. 会長・副会長選出・挨拶
7. 議題
 - （1）恵那市一般廃棄物処理基本計画について（資料1・資料3）
 - （2）恵那市一般廃棄物処理実施計画について（資料1・資料4）
 - （3）廃棄物減量の取組みについて（資料1）
8. その他
9. 閉会
- 10.出席者 12人中10人（以下のとおり）

No.	氏名	所属団体等	備考	第1回出欠
1	柴原 尚希	中部大学	会長	出席
2	渡辺 武彦	地域自治区会長会議	副会長	出席
3	柘植 昭男	地域自治区会長会議		欠席
4	加藤 信之	恵那市社会福祉協議会		出席
5	白澤 洋介	生活協同組合 コープぎふ		出席
6	梅村 克利	(株)パローホールディングス		欠席
7	吉本 巖	王子マテリア(株)		出席
8	高井 盛人	東栄製紙工業(株)		出席
9	近江 則明	ケイナンクリーン(株)		出席
10	別府 裕二	(株)恵那清掃		出席
11	野原 勝樹	恵那県事務所環境課		出席
12	吉田 勝利	中部地方環境事務所		出席

(順不同)

- 11.傍聴者の数 1人

1. 開会

■事務局（進行） 第1回審議会を開会する。

委員12名のうち10名が出席しており、「恵那市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則」の規定により会議が成立している。会議は「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき原則公開とし、会議録も公表する。

2. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 委嘱書を水道環境部長が市長の代理で交付する。

[水道環境部長より委嘱書を交付]

3. 水道環境部長挨拶

■水道環境部長 皆様には審議会の委員を、令和6年度末までの約2年間の任期として任命した。活発な御意見を頂きたい。

この推進審議会では、一般廃棄物の減量、再利用の促進に関する事項を審議いただく。廃棄物減量の取組について、本日5つの項目を紹介する。市民の理解、協力のためにしっかりピーアールをして進めていきたい。その点についても皆さんから意見を頂きたい。

4. 委員自己紹介・事務局紹介

[委員自己紹介]

[事務局自己紹介]

5. 審議会の組織運営について（資料1・資料2）

[事務局から資料に基づき説明]

6. 会長・副会長選出・挨拶

■事務局（進行） 恵那市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則の中で、「審議会に会長、副会長を置く」さらに、「委員の中から互選する」とある。意見はあるか。

■委員 事務局に一任したい。

■事務局（進行） 会長に中部大学・柴原様、副会長に地域自治区会長会議・渡辺様をお願いしたい。承認いただければ拍手をお願いします。

[拍手する者あり]

■事務局（進行） それでは、柴原様、渡辺様、前の席へ移動してください。

■事務局（進行） 挨拶をお願いします。

■会長 大学としてもお世話になっている恵那市で審議会委員に委嘱いただくのみならず、会長にまで御指名いただき大変光栄であるとともに、身の引き締まる思いです。

廃棄物行政を初め、環境の問題、脱炭素、サーキュラー・エコノミーなどいろいろなキーワードが出てきており、いろいろな施策もこれから紹介いただけると思うので、活発な議論、協力をお願いします。

■副会長 選出ありがとうございます。柴原会長をサポートしながらスムーズな議事運営のお手伝いをしたい。

7. 議題

■事務局（進行） 「恵那市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則」第 22 条第 4 項の規定により、会長が議長になると定めている。議事進行は柴原会長をお願いする。

(1) 恵那市一般廃棄物処理基本計画について（資料 1・資料 3）

(2) 恵那市一般廃棄物処理実施計画について（資料 1・資料 4）

[事務局から資料に基づき説明]

■会長（議長） 質問、意見をお伺いする。

■委員 生ごみの分別で、一次発酵の関係はいい考えだが、50 世帯ではどの程度の減量になるのか心配。それを市の職員が戸別で集めるのは職員の負担が大きいので心配だ。

■事務局 1 世帯につき 1 パックで 20kg 入る。20kg×50 パックで 1 トンの削減効果になる。1、2 カ月投入して熟成したものを回収するので、2、3 カ月に 1 回の回収になり、それほど手間は無い。ただ、通常の収集の合間をぬって行うので、例えば 8 月初めに配布したら、10 月初めの 2 週間ぐらいいを集める期間にするかもしれない。

■委員 ペットボトルの分別は、今まではキャップを外してボトルを洗っていた。今日も竹折地区で収集があったが大体徹底されている。来年の 4 月からはラベルを外してボトルを潰すということについて、いつ頃から周知するのか。早いうちから癖にした方がいい。

■事務局 10 月ぐらいいを目途にペットボトルを常設回収拠点施設に集める。9 月ぐらいいには市民に周知したい。予定である。

■委員 環境全体のことなので難しい話もたくさんあると思う。我々としてはフードドライブの話をしたい。

今恵那市では、生活に困っている方が増えてきている。食品にかける生活費がないという相談が急に来る。そういった方に対して緊急の食料支援をする。1週間ぐらいの食料を渡している。月に8件ぐらいの要望があり、5、6カ月で40件強ぐらいある。生協にも協力いただいて行なっている。市民が余った食料を社協に届け、それを活用して支援している。今回バローさんにも協力いただけるので感謝している。回収は社協で行う。社協の職員が恵南にも他のいろいろな業務で回ったときに回収してくる。多くの市民の協力が得られるよう市から市民への周知をお願いしたい。

■事務局 フードドライブは広く市民に告知をして知っていただくことが大事だと思うので周知していきたい。

■委員 フードドライブは、10月15日1度で247.6kgの回収をしたというのはすごい。何人ぐらいでどういったものだったのか。

■事務局 時期が良かった。ちょうど新米がとれる時期で、余った古米を活用してほしいということで、お米が非常にたくさん集まったため、この量になった。30kgの袋3つを精米して10kgごとの個包装に分けてくれた人もあった。何人参加したかは手持ちがない。

■委員 我々は毎月10日に月1回やっていたが、多くて20kg、大体10kgぐらいだった。

■委員 廃食用油の活用を明知鉄道とタイアップするのは面白い。例えば明知鉄道や市のイベントと絡めて集める量の目標設定をした方が、周知しやすいのでは？

廃プラスチックの資源化は、今までRDFで進んできたのを、プラスチックを分けて集めるということだと思う。その場合、今まで作られたRDFはどうなるのか。私どもも古紙から出てくるごみでRPFのようなものを作ってやっているが、プラスチックが入らないと成型が厳しい。RDFはどうなのか。

■事務局 廃油回収は令和5年廃食用油再生事業者の回収量を4万2300リットルとしている。今後市目標を決めながらいきたい。主要駅のポストに設置して観光客にアピールする。イベントについては明知鉄道とも相談しながら進めていきたい。

廃プラスチックの分別とRDFの品質。RDFとRPFとバイオマスボイラーがある。RDFのボイラーは何でも燃やせるが、RPFのボイラーやバイオマスボイラーではRDFは燃やせない。理由は、RDFは塩分が強くなりかなり炉に影響を及ぼすためだと聞いている。恵那市も廃プラスチックのうち塩化ビニール類は不燃ごみとして出してもらっている。プラスチックを除いたとしても、その塩分は濃縮されず、逆に減っていくという想定をしている。そのような形である程度の品質は確保できると想定している。

■委員 2点確認する。ペットボトルのリサイクルは、フィルムをはがし、キャップを取り、ゆすいで、潰して保管ということだが、各家庭で何か専用の袋に入れて保管するのか、どこかへ持ち込むことが可能なのか。

それから、プラスチックについて。弊社は恵那市のRDFをバイオマスボイラーで燃料

として使っている。プラスチック類が減ることによって発熱量がどう変化するか。

■事務局 ペットボトルは、ラベルをはがす、キャップを外す、すすぐ、潰すを行なっていただく。地域の常設回収拠点は 24 時間捨てられる。家庭で保存していただいてもいいし、回収拠点に出していただいてもいい。

■委員 回収拠点というのは、自治会の集積所ではなく、各地域にある、例えば弊社の段ボールのところ、そこには 24 時間いつでも持ち込んでもオーケーだということか。

■事務局 潰す、ラベルをはがす、というのを広報していきたい。

■事務局 RDFからプラスチックを除いた場合のカロリーは詳細な分析をしていないので、次回の審議会で回答する。

■委員 分析が足りない。生ごみの堆肥化、処理量が 831kg と書いてあるが、これでできた堆肥がどのくらいになるのか。堆肥を 11 のこども園でどう活用されるのか。明智給食センターの残渣と残飯でやっただけでこれだけあるが、恵那市内の給食センター、バイオディーゼルの方ではやらないのか。50 軒の一般の家をやるより、給食センターでやった方が、質も担保できるので、その処理量を増やした方がやりやすいと思う。市民への啓発という意味で一般市民の分をやるという趣旨だと思うが、コストパフォーマンスが悪い。労力がかかって成果が少ない。廃棄物の処理という概念なら、給食センターの方を増やす方がいい。

活用については、市内には養豚業者があり堆肥はあり余っている。ここで作った堆肥を誰に使ってもらえるのか。一般の家庭にどういう形で配るのか。基本的に自家処理をしているという話がさっきあった。多分農地を持っている方は自分のところで堆肥を作っている。それ以外の人はどこで使うことが想定されるのか。堆肥はどこまで使えるのかということも考えた上でやらないといけない。

フードドライブの取組は増やすといい。

廃食用油回収のバイオディーゼルについて。回収量を増やすというが、燃料製造設備の能力に合わせた回収量の見込みを立てないといけない。処理できず余っても困る。バランスを考えないといけない。

■事務局 堆肥は、令和 4 年度で 831kg 使って 5 m³ほどでき、市内のこども園に使ってもらった。こども園は化学肥料を使って敷地が荒れていて固くなっているの堆肥がほしいということで、喜んで使ってもらっている。4 月に配布して、作物を作って秋ぐらいには成果が出てくるということで、その意見ももらう。次の審議会で話せると思う。

給食センターでやった方が減量につながるが、家庭内での減量の取組をしっかりと伝えて、家庭内でごみを減らしたり資源化することについてアピールしていきたい。

廃食用油の見込み量は、目標にも関連するので、目標値を設定して次の審議会で提示する。

■委員 いい方向で検討されていると思う。3 点気になっている点がある。生ごみ、ペッ

トボトルリサイクル、マテリアルリサイクル・サーマルリサイクル。

生ごみの資源化。焼却処理や可燃物に混ざっているものの中で水分量が多いものを分けるというのは、その処理に非常にいい効果があると思う。なので、アピールポイントとして、分けることによってその施設に対して、燃料とかはいらなくなるとか、そういういい評価ができると思う。あと、今回の事業が 50 世帯というのは、今回試験的にやって今後広げていくということだと思う。規模が違くと今回の試行のように職員が頑張るという形ではできないと思うので、違うスキームを今後考えていく必要がある。生ごみはほかの自治体でも取組が進んでいるところは多くないので、これが一般化できると非常に良い。

ペットボトルの水平リサイクル。私も工場を見に行った。サントリーなどのメーカーとつながることは、静脈動脈連携になり、環境省も経産省と一緒に今力を入れている。こういうところの動脈連携というのは非常に価値が高い。廃棄物の世界は静脈で、産業のところは動脈。そういうワードも取り入れられる。

廃プラスチックの資源化。今の RDF のサーマルリサイクルは、最終的な手段に近いものがあり、リサイクルの世界では評価が低い。今参加いただいているケミカルリサイクルや、事業者があればマテリアルリサイクルに回してもいい。その方が位置的には一段上になる。総合的な環境負荷を考えるといい取組なので検討いただきたい。

そういうところを検討していくと、RDF、RPF も、今後それが回る既存のところの問題はないのか評価しないといけない。プラスチックがそこに行かなくなるのかとか、工場を見ると一般廃棄物の方へ行っていないなくても産廃に行っているという事情があったりする。企業視点では、一般廃棄物と産廃と一緒に回っているということも観点の一つになる。そういう評価軸があるとより総合的な見解になる。

■事務局 生ごみは、継続できるスキームを作ることが課題だと思っている。

廃プラスチックは、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルというリサイクルの順序、効率化というのがあると思う。現在の RDF がサーマルリサイクルで評価が低いのは承知しており、市民の分別の手間も考えながら、何とか資源の有効活用をすることを考えていきたい。また情報をいただきたい。

■委員 油の回収量、施設の処理能力について。油のリサイクルは私たちの会社が行なっている。県と市からの廃棄物処理量の許可は 1 日 100 リットルで、設備の能力は 1 日 800 リットル。今ほとんどが廃棄物ではなく有価取引された油をリサイクルしている。1 日に 800 リットル、1 年で 24 万リットルできる。昨年度 BDF（バイオディーゼル）にしたものが 6 万リットル程度なので、恵那市が全量集めたとしても施設の能力の余裕はかなりあるので心配ない。

バイオディーゼル燃料を使ってもらう先が必要になる。明知鉄道には 1 年間の実証試験で軽油と 30%混合した P30 燃料を使ってもらっている。この実験がうまくいけば増やし

てもらおうとか、恵那市直営の車両やバスで使えば、市内の循環ができる。道路を走るには法律の規制で5%混合しか使えないので、どうしても月間に5、6千リットル程度になり、使い切れないので、この辺の協力をお願いしていきたい。

■事務局 恵那市で廃油回収、資源の循環に取り組んでいきたい。

■委員 ペットボトルの「ボトル to ボトル」の件について、事業系はどのように考えているか。

あと、プラスチックの資源循環に関して。エコセンターは今後10年間は稼働すると聞くが、当面はRDFがメインで、新しい施設に変わるときにこのプラスチック資源循環促進法の取組を念頭に入れていくという考えなのか、現状でもRDF化しつつ、リサイクルしやすいものをプラとして、容器包装だけじゃなくて繊維プラもやっていくという考えなのか。

フードドライブはどういったものまで大丈夫なのか。例えば災害備蓄品で5年保存の食品などを提供するの気が引ける。

■事務局 ペットボトルは、事業系については今のところ特には考えてないが、事業系でもペットボトルのラベルをはがすなどは協力いただいている。

■事務局 プラスチックの分別は、広域化に向けて取り組んでいく事業か、前段階からやっていくのかということところだが、やはり早いうちに進めていった方がいいと思っている。ただ、中津川市と足並みをそろえるというのにも必要。また、恵那市の廃棄物の計画に応じて広域の計画も立てるので、施設規模、処理方法にも絡んでくる。市として早い段階からやっていくべきだと思っている。

フードドライブは、災害備蓄品も提供いただいた。賞味期限まで1カ月以上あり、未開封のもので、嗜好品・お酒はだめ。人気があるのはお米、乾麺、レトルト食品とのこと。提供いただいたものはなるべく受け取るようにしたい。アレルギーがあるからもらえないという方もいるかもしれないが、全部団体様の方で配布していただくので、お互いの取り決めの中でやっていきたい。

■会長（議長） 話を伺って私も勉強になった。まとめる。

周知。新しい取組について、市民への情報提供。広報等のツールで、市役所でしっかりやっていただければいい。

明知鉄道を天ぷら油で動かすというのはキャッチーな話。イベントを使えば興味のある人は来るだろう。

廃棄物がうまく循環するかどうか。動静面でうまく連携できるかどうか。提供する量と活用する先の量がうまく一致するかどうか。その辺の詳細な分析をもう少し進めてもらおうとよりいい資料になる。

では、各委員から出た意見・提案は、次の審議会で検討結果を報告していただく。

8. その他

- 事務局（進行） 次回の審議会は、9月、10月あたりで開催したい。
- 事務局 本審議会の委員には御礼及び交通費を年度末に振込みする。マイナンバーを市に登録していただく必要がある。市にマイナンバーの登録が無い方にのみ、申請書類を提出してもらう。
- 事務局（進行） 審議会を終了する。

[閉 会]